

進行/再発乳癌 パーゼタ+ハーセプチン+ドセタキセル 療法レジメン

B-20 <21日間隔：ヘルツマブ、トラスツマブ、ドセタキセル（3週毎）>

治療日		第1日目	第2~7日目	第8~14日目	第15~21日目	第22日目
治療内容						
検査	採血	○				○
診療	副作用の問診	○				○
	検査結果	○				○
	心機能のモニタリング必要。	○				○
	3ヶ月に1回心エコー。	○				
治療中止基準	①WBC ②好中球 1500未満 ③血小板 10万未満 ④発熱・CRP上昇 ⑤AST又はALTが施設基準値上限の1.5倍、ALPが施設基準値上限の2.5倍を超える場合	—	—	—	—	—
プレメディケーション	—	—	—	—	—	
点滴	①生食50ml ルートキープ用	○				○
	②（初回） パーゼタ 840mg+生食250ml 点滴静注【60分以上】	初回 ○				
	②（2回目以降） パーゼタ420mg+生食250ml 点滴静注【2回目以降30分以上】	2回目以降 (○)				○
	③生食50ml ルートフラッシュ用 (15分以上かけて)	○				○
	④（初回） ハーセプチン8mg/kg+生食250ml 点滴静注【90分以上】	初回 ○				
	④（2回目以降） ハーセプチン6mg/kg+生食250ml 点滴静注【2回目以降30分以上】	2回目以降 (○)				○
	⑤生食100ml +デキサート3.3mg 2A 点滴静注【30分】	○				○
	⑥ドセタキセル（75mg/m ² ） +生食 250mL 点滴静注【60分以上】	○				○
⑦生食50ml ルートフラッシュ用（全開）	○				○	

減量基準
ドセタキセル 減量前 75mg/m² → 減量後 55mg/m²

看護のPoint!!

投与中に過敏症状が起こることがあるので、投与終了までは、患者の状態を十分に観察すること。

アレルギー反応が、特に初回起こりやすい。投与中と投与後24時間以内は特に注意。

アレルギー反応＝発熱・悪寒・呼吸困難などの違和感

初回投与の40%にinfusion reaction発現注意。2回目以降は5%以下。

ドセタキセルは血管外漏出すると大変！！点滴中は漏れてないか確認。

万が一もれていたらマニュアル参照

副作用は、脱毛、骨髄抑制、浮腫が起こりやすい

吐き気は少ないので、アロキシはなし。